

サッカーにおけるチャントの意義 アブストラクト

1.1 研究の背景

スポーツにおいて声の応援は影響力が強く、スポーツによっては、競技中の声の応援を禁止しているスポーツもある。そのなかで現在のサッカーにおける声の応援・応援歌の存在意義を考えていく。サッカーでは、それぞれのチームがホームタウンとホームスタジアムを持ち、サポーター(サッカーにおけるファンの通称)は、ホーム&アウェーそれぞれに足を運び応援を行う。スタジアム内のサポーターの比率は、試合によって異なるもののホームが7割、アウェーが3割ほどとなっている。ホームのチームにアドバンテージを与えるために、この割合になっており、チャント(応援歌)などを歌いチームを鼓舞することがサポーターの役目となっている。

現在、日本プロサッカーリーグ、通称「Jリーグ」では、コロナ禍における緊急事態宣言を受けて、各スタジアム内の収容人数50%以下・もしくは20000人以下、の収容人数。ブーイングやチャントなどの声を出す行為、ハイタッチや肩組みなどの接触行為、タオルマフラーを振り回す、ビックフラッグを客席に被せる密を作る行為を禁止されている。許可をされているのは、拍手での応援、横断幕の掲載、タオルマフラーを掲げるなど、飛沫や接触が無い行為。これらは、Jリーグ公式が出している応援プロトコルに記載されている内容を参照している。また、プレーに対してのリアクションで声が出てしまうのは許容範囲として許可されている。

また、スタジアムの場内アナウンスを利用して、拍手の音を流し、観客の拍手を促すことや、応援歌を流し、気分だけでも盛り上げることがある。

1.2 研究の目的

その中で、サポーターは、拍手や手拍子などによってチームを鼓舞していることになるが、世界各国のチャントを調べ、特徴とチームに対しての影響を考えていく。

1.3 本論文の構成

第2章ではアジアの中から日本、ヨーロッパからサッカーの母国であるインブラント、南米からは熱狂的な応援が特徴であるアルゼンチン、オセアニアで一番の強豪であるオーストラリア、の応援スタイルを含めたサッカーの現状を1. 応援の特徴 2. その文化的な側面 3. そのチームへの影響 4. 考察、を意識して分析する。東南アジアからは、カンボジアのサッカーの現状を分析する。

第3章では日本のJリーグのチャントがどのような魅力があり、どのようにしてチャントをアピールしていけば、その魅力を波及させていけるのか考える。